



連携事例9

R5.8 更新

**食と農・作り手と食べ手がつながる発酵の里づくり**  
 ～ 町民の中にある“小さな公”を育み活かすコミュニティデザイン ～



発酵サミットでのこうざき発酵スポットツアー

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

NPO 法人こうざき発酵道楽  
 (旧こうざき発酵の里協議会)

■協働パートナー

- ☆寺田本家 ☆こうざき自然塾
- ☆南実の音農園 ☆福ちゃんのパン
- ☆みなみ屋 ☆神山酒店 ☆月のとうふ
- ☆くすくす笑店 ☆ふる里物産坂本(朝市組合)
- ☆NPO 法人日本自給教室 ☆NPO 法人トージバ
- ☆神崎町 ☆小中学校 計13団体

■事業費

☆46万円

■資金調達手段

☆事業協力

**事業概要**

都市部を中心としたより多くの方々に神崎町の発酵・醸造文化を知って・楽しんでもらうため、酒蔵祭での企画提案や、お米づくりや大豆栽培からはじめる日本酒づくり・味噌仕込み等の体験プログラムの実施、発酵料理教室、漬物コンテスト、食や発酵にまつわる映画上映会や各種講演会等の開催に取り組んできました。  
 また、町の中心街にある旧役場をリノベーションし、毎週金曜日、地元野菜に発酵物産、平飼い卵・手作りお惣菜等など作り手の顔が見える食品を販売する「金曜夕市」を定期開催しています。

**協働までの経緯**

千葉県北東に位置し、人口約6千人の県内で最も小さな町 神崎町は、利根川の豊富な水源と北総台地の豊かな土壌を活かし、かつては「関東灘」と呼ばれるほどに発酵・醸造産業やその文化が彩る町でした。しかし近年その産業は衰退するとともに、町の中心部の街道沿いもかつての賑わいが失われつつあります。  
 こうざき発酵の里協議会は、平成20年発酵をテーマに町をもう一度元気にしていくことを協議する団体として町民発意で結成されました。構成メンバーは代表の「小さい(町)だからこそ繋がりを大切にしていこう!」との呼びかけに、町内から2つの老舗の酒蔵や地元農家、地元素材を活かしたパン屋やおとうふ屋等の店主やNPO等賛同する約20~30の団体・個人が参加しました。  
 会議では役場も参加しての協議が重ねられ、個々の酒蔵で開催されてきた春の新酒祭りの同時開催を企画し、調整・準備を参加団体総出で進め、開催しました。その酒蔵まつりの成功は、マスメディアや口コミを通じて「発酵の里」としての知名度アップにつながり、事業者間では自ずと協働が進み、町内の農家が生産する在来大豆や有機野菜を使った豆腐づくり・漬物づくり、酒蔵の酒粕を酵母としたパンづくりをはじめとした新たな発酵コラボ物産品が登場するようになっていきました。

そして近年発酵の里協議会では、町内の発酵のまちづくり気運を喚起していこうと、全国で発酵食品を通じて産業振興を進める14の自治体・団体からなる全国発酵のまちづくりネットワーク協議会に加入し、地域間交流を進める傍ら、平成24年度関東地方で初めての「全国発酵食品サミット」を開催。発酵のまちづくりの経験、ノウハウを共有するべく“地方間でつながる”取り組みを行ってきました。

### ① 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①金曜夕市(毎週) & 夏祭(8月)
  - ②新月市(毎月第3土曜日)
  - ③日曜朝市(毎週)
  - ④酒蔵まつり(3月)
  - ⑤なんじゃもんじゃフェスティバル(11月)
  - ⑥小学生の手前味噌づくり食育支援(通年)
  - ⑦発酵の里協議会(個別・全体)の開催
  - ⑧全国発酵のまちづくり連絡協議会(円卓会議、年1回)
- ほか

### ② 主な協働パートナーとの役割分担

主に事業の企画・運営・実施はこうざき発酵道楽の構成主体が担い、事業実施における実現化方策の検討、広報支援等について行政が協力してきました。

### ③ 協働事業によって生まれた成果

- 平成20年以前に個々に開催していた2つの酒蔵祭りを、こうざき酒蔵祭りとして同時開催するようになったことで、5千人だった来場者が25年度には約4万人になった。
- 町内の発酵物産品数がほぼ横這いだった状況下で、事業同士の新たな協働を通じてローコストの売り方を踏まえた新発酵物産品の開発が進んだ。
- 地域間連携によって発酵のまちづくりに関する経験やノウハウの補完体制が整った。

### ④ 今後力を入れていきたいこと

発酵にまつわる地場産業・新サービス業、まちづくりや農業等の担い手育成と移住者支援、空家空き店舗対策、町の中心部の活性化。



小学生の手前味噌づくり食育支援



こうざき家庭の味が集う  
漬物コンテスト

## ♡ コラボのコツ!!

- ★利害を超えて響きあうまちづくりの方向性を探る
- ★協働は楽しくなければいけない
- ★個人レベルからの“地域のために”といった想い=「小さな公」がつながり・生きるコミュニティデザイン

小さな町の中で、それぞれが自分の利益だけにとらわれていては、町の活性化は図れません。

住民の発意から互いに協力し合い、利害を超えた町づくりで目指したことが、地域が活性化してきました。

でも、せっかくみんなが集まっても角をつき合わせていたのでは、いい案なんて出るわけではありません。楽しい協働こそ良い結果につながると思います。

個人レベルからの“地域のために”といった想い=『小さな公』がつながってこそ、生きたコミュニティデザインにつながっていきます。



神崎のこだわりの野菜や  
発酵食品に出会える金曜夕市



発酵=未来を共有する発酵座談会

## 協働事例プロフィール

【活動開始年】平成18年（法人化：平成26年3月31日）【活動のPR手法】<http://hakkou.org/>  
【この事業で活用した補助金】千葉県：連携・協働による地域課題解決モデル事業（H23・24）  
【表彰歴・マスコミ掲載歴等】千葉県：ちばコラボ大賞（H25）  
【問い合わせ先】担当者：青木秀幸 電話番号：0478-72-2221  
メールアドレス：masaru@teradahonke.co.jp